

■ 地域防災マスターについて

北海道では、消防や市町村等で防災業務を経験してきた方などに地域の防災活動の中心になって活動していただく「地域防災マスター」の認定を行っています。

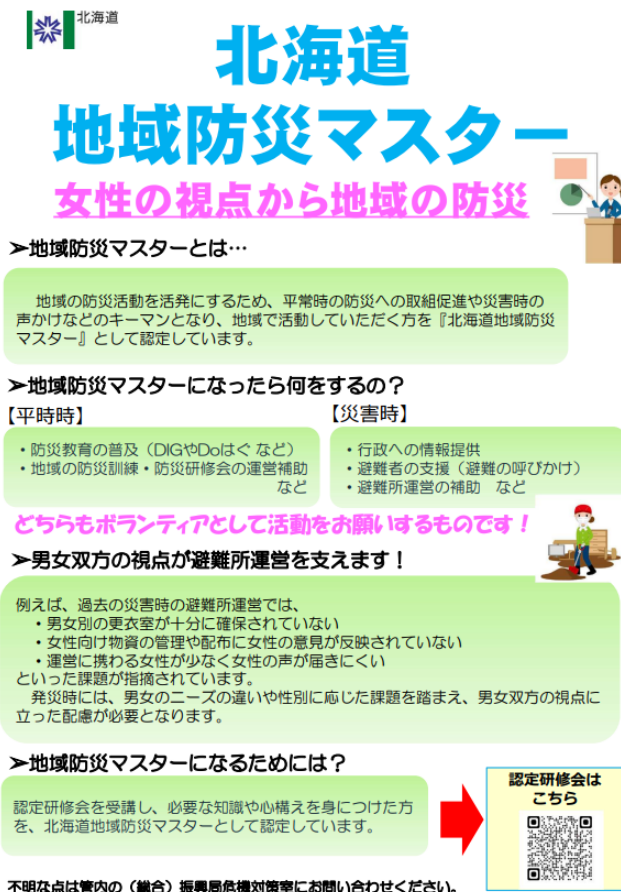
各（総合）振興局ごとにマスターの心構えを身に付けるための研修を実施していますので、認定を希望される方はぜひご参加をお願いします。

また、平時からの地域防災活動や災害時の避難所運営などに多様な視点を取り入れるため、女性や若い方（学生など）の更なる増加を目指しています。

地域防災マスターの活動は、地域の防災力向上に欠かせない重要な役割を担っています。より多くの皆様に地域防災マスターとして活躍いただき、安全・安心な地域づくりをともに進めていきましょう。

《研修会の情報はこちらから》 ※随時更新します

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/ktk/bsb/master/kaisai.html>



北海道
地域防災マスター
女性の視点から地域の防災

▶地域防災マスターとは…

地域の防災活動を活発にするため、平常時の防災への取組促進や災害時の声かけなどのキーマンとなり、地域で活動していただく方を『北海道地域防災マスター』として認定しています。

▶地域防災マスターになったら何をするの？

【平時時】	【災害時】
<ul style="list-style-type: none">防災教育の普及（DIGやDoはく など）地域の防災訓練・防災研修会の運営補助 など	<ul style="list-style-type: none">行政への情報提供避難者の支援（避難の呼びかけ）避難所運営の補助 など

どちらもボランティアとして活動をお願いします！

▶男女双方の視点が避難所運営を支えます！

例えば、過去の災害時の避難所運営では、

- 男女別の更衣室が十分に確保されていない
- 女性向け物資の管理や配布に女性の意見が反映されていない
- 運営に携わる女性が少なく女性の声が届きにくい


といった課題が指摘されています。

発災時には、男女のニーズの違いや性別に応じた課題を踏まえ、男女双方の視点に立った配慮が必要となります。

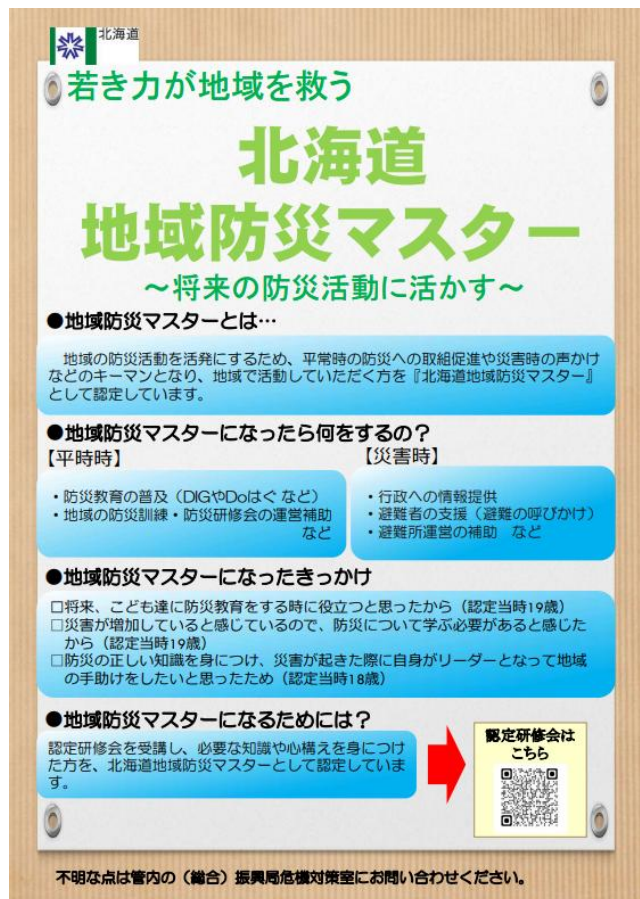
▶地域防災マスターになるためには？

認定研修会を受講し、必要な知識や心構えを身につけた方を、北海道地域防災マスターとして認定しています。

認定研修会はこちら



不明な点は管内の（総合）振興局危機対策室にお問い合わせください。



若き力が地域を救う
北海道
地域防災マスター
～将来の防災活動に活かす～

●地域防災マスターとは…

地域の防災活動を活発にするため、平常時の防災への取組促進や災害時の声かけなどのキーマンとなり、地域で活動していただく方を『北海道地域防災マスター』として認定しています。

●地域防災マスターになったら何をするの？

【平時時】	【災害時】
<ul style="list-style-type: none">防災教育の普及（DIGやDoはく など）地域の防災訓練・防災研修会の運営補助 など	<ul style="list-style-type: none">行政への情報提供避難者の支援（避難の呼びかけ）避難所運営の補助 など


●地域防災マスターになったきっかけ

- 将来、子ども達に防災教育をする時に役立つと思ったから（認定当時19歳）
- 災害が増加していると感じているので、防災について学ぶ必要があると感じたから（認定当時19歳）
- 防災の正しい知識を身につけ、災害が起きた際に自身がリーダーとなって地域の手助けをしたいと思ったため（認定当時18歳）

●地域防災マスターになるためには？

認定研修会を受講し、必要な知識や心構えを身につけた方を、北海道地域防災マスターとして認定しています。

認定研修会はこちら



不明な点は管内の（総合）振興局危機対策室にお問い合わせください。

■ 自主防災組織について

阪神・淡路大震災や東日本大震災など、災害の規模が大きくなればなるほど、地域の防災機関（自治体や消防）が全ての災害現場に向かうことは難しくなります。

阪神・淡路大震災では、6,000名を超える尊い命が犠牲となりましたが、がれきの下から救出された方々は25,000～35,000人とも言われており、その救出にあたって活躍したのは、地域の住民や小規模事務所の方たちでした。

災害時には、「自助」「公助」とともに、地域における自主防災組織、ボランティア、企業などが助け合う「共助」の仕組みの構築が重要です。

自主防災組織は、地域住民が自分たちの地域は自分で守るという自覚、連帯感に基づき自主的に結成する組織のことで、こうしたネットワークにより、日頃から災害に備えた様々な取組を進めることで、いざ災害が起きた場合にも大きな成果をもたらします。

ぜひ、あなたの街でも、自主防災組織を結成してみましょう。

北海道 「自主防災組織」を結成しませんか？

自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感に基づき、災害による被害を予防し、軽減するための活動を行う組織です。

発災時に重要な「自助」と「共助」



災害時の備えは、**自助・共助・公助**の3つに分けられます。

- 自助 自分の身を自分の努力によって守る
- 共助 地域や近隣の人が互いに協力し合う
- 公助 行政による救助・援助など

しかし、災害時は「公助」が十分に機能しない場合もあります。その中で**命を守るために重要なのが「自助」と「共助」**です。

能登半島地震でも活躍した自主防災組織

令和6年（2024年）1月に発生した能登半島地震の際、能登半島の先端部の海沿いに位置する**珠洲市三崎町寺家下出地区**では、**地震発生後に隣近所が声を掛け合い、早期に避難**したことで、堤防を越える大きな津波が地震発生から25分ほどで襲来し、多くの住宅が倒壊したものの、**住民全員の命が助かりました**。

この地区では、**自主防災組織が設立**されており、**避難計画等が整備**されていたほか、2011年の東日本大震災以降、**毎年1～2回地震や津波を想定した避難訓練を実施**しており、こうした**日頃からの取組が命を守るとっさの行動に繋がった**と言えます。



「自主防災組織」を結成しましょう

<結成するメリット>

- ・地域内の**繋がりの強化**
- ・地域内での**役割の明確化**
- ・活動に対する支援策がある場合も…

■自主防災組織活動カバー率（R7.4.1時点）

北海道	全国
80.3%	85.9%

※北海道は全国37位

<活動例>

【平時（普段）】

- ◆防災組織の普及・啓発
- ◆地域の災害危険の把握
- ◆防災訓練の実施



【発災時】

- ◆被災住民の救出・救護
- ◆給食・給水活動
- ◆避難所運営など



<結成するには>

新たに結成

- 既存の組織に関係なく、新たにメンバーを集めて結成する

既存の組織を活用

- 既存の組織（町内会や自治会）に防災部などを設置

※組織の結成など、詳細につきましては、お住まいの市町村にお問い合わせください。

作成：北海道総務部危機対策局危機対策課 TEL：011-206-7804

「自主防災組織についてのページ」 <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/ktk/bsb/jisyubousai.html>